

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年7月15日(水)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年7月15日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【既設多核種除去設備(C)建屋内のクロスフローフィルタ(2C)二次側出口配管ピンホールからの水の滴下について】 既設多核種除去設備(C)建屋内のクロスフローフィルタ(2C)二次側出口配管下部に水溜りがあることを、協力企業作業員が確認。 滴下箇所特定のため出口配管保温材を取り外したところ、配管フランジと出口弁との間にピンホール(ごく小径な穴)があり、微量の系統水の滴下を確認。 滴下した水は堰内の受け皿内に留まっており、建屋外への流出はないことを確認。 その後、当該系統を隔離したことにより、滴下が停止したことを確認。 今後、ピンホールの原因調査および対応を検討。</p>	GⅢ	7月9日
2	<p>【既設多核種除去設備(A)建屋内のクロスフローフィルタ(2A)一次側出口配管ピンホールによる薬品析出の形跡確認について】 既設多核種除去設備(A)建屋内のクロスフローフィルタ(2A)一次側出口配管ピンホール(ごく小径な穴)による薬品析出・腐食の形跡があることを、協力企業委託運転員が確認。 当直員が現場の当該箇所を確認したところ、薬品析出がすでに停止していることを確認。 その後、当該箇所の養生を行い、設備保護の観点から希釈操作を実施し漏えいが再発しないことを確認後、当該系統を隔離。 今後、薬品析出の原因調査および対応を検討。</p>	GⅢ	7月9日
3	<p>【プロセス主建屋の常用動力用電源盤点検に伴う接地装置制御電源ヒューズ投入時の警報等の発生について】 プロセス主建屋の常用動力用電源盤点検に伴い、接地装置を使用するために当直員が制御電源ヒューズを投入したところ、以下が発生。 ①プロセス主建屋の直流125V充電器盤に「負荷電圧補償装置直流(-)地絡」警報が発生し、盤内の地絡保護継電器が動作。 ②プロセス主建屋の漏電警報器盤に漏電ランプが点灯。 ③免震重要棟集中監視室の遠方監視パソコン画面に「プロセス主建屋常用M/C母線接地装置使用中」表示が点灯。 ④プロセス主建屋の遮断機本体接地装置扉に接地使用中ランプが点灯。 ⑤免震重要棟集中監視室の操作・監視装置用端末機のプロセス主建屋常用動力用電源盤に「接地装置使用中」と表示。 制御電源用ヒューズを引抜いたところ、①～④は復旧できたが、⑤は復旧できなかった。 今後、原因調査および対策を検討。</p>	GⅢ	7月12日
4	<p>【構内バス運転手のAPD一時不携帯について】 構内巡回バス運転手がバス車内に電子式線量計(以下、APDという)を置いたまま雑固体廃棄物焼却設備内のトイレへ行き、バスに戻るためにゲートを通過した際、警備員よりAPDの一時不携帯を指摘された(一時不携帯時間は約17分間)。 トイレに急ぐことに気が焦ってしまい、無意識にAPDを外してバスを降車してしまったことが原因と思われる。 今後、再発防止を検討。</p>	GⅢ	7月6日